

江戸を読む

この豊かなる古書世界

塩村耕

今週のことば 青山俊董

猿にラツキヨウをやると皮をむくのですが、しまいまで皮です（中略）。ラツキヨウは全部皮だけれども、皮ぐるみ実になつてゐるわけです。お互いさまの人生の問題も、一つ一つが人生そのものです。毎日やっている一足一足が

は人が入りやすくして、火事の原因となるほりがたまつねようつにすること、閉炉裏を

やめて筆にすること、土蔵の窓には銅製のふたを付けることなどなど、家の隅々にまで新だな工夫を施すことを提案する。震や火事への対策ばかりでなく、家屋の耐用年数を大幅に増やし、森林の伐採を減らして、土農工商のうち為政者

は先進国の中で突出して住宅の寿命が短いといわれています。

それに対して、本書の筆者は、「何事も古しえよりの有りなりに任せ、固くこれを守る」は、古法に縛られるとい

う」と、ただただ伝統を無批判に墨守する態度を批判す

る。「有りなり」とは「自然なりがちで、現に今でも日本

し、国の経済にとつてもためになるといつた。たしかに、住

宅は環境に対する負荷も大き

く、頻繁に建て替えることは望ましくない。ところが、人

は衣食住については保守的に

向に導くべきと主張する。

う」とは、「今」の一瞬、処

事には「ここ」でしかない。「今」と

言つたときにはすでに過去になつ

ているというように、つかまえよ

うのない「今、ここ」。

健康で働ける今もあるう。寝た

きりの今もあるう。愛している今

愛が憎しみに変わつてしまつてい

る今、ほほえんでいる今、腹を立

てる今。どの今もかけがえの

ない私の命の歩みであることに気

づけば、この今をどう生きるべき

かの答えはおのずから出よう。

今、ここをおいて、どこかへ、これを流転といふ。

沢木興道

猿にラツキヨウをやると皮をむくのですが、しまいまで皮です（中略）。ラツキヨウは全部皮だけれども、皮ぐるみ実になつてゐるわけです。お互いさまの人生の問題も、一つ一つが人生そのものです。毎日やっている一足一足が

は先进国の中で突出して住宅の寿命が短いといわれています。

それに対して、本書の筆者は、「何事も古しえよりの有りなりに任せ、固くこれを守る」は、古法に縛られるとい

う」と、ただただ伝統を無批判に墨守する態度を批判す

る。「有りなり」とは「自然なりがちで、現に今でも日本

し、国の経済にとつてもためになるといつた。たしかに、住

宅は環境に対する負荷も大き

く、頻繁に建て替えることは望ましくない。ところが、人

は衣食住については保守的に

向に導くべきと主張する。

う」とは、「今」の一瞬、処

事には「ここ」でしかない。「今」と

言つたときにはすでに過去になつ

ているというように、つかまえよ

うのない「今、ここ」。

健康で働ける今もあるう。寝た

きりの今もあるう。愛している今

愛が憎しみに変わつてしまつてい

る今、ほほえんでいる今、腹を立

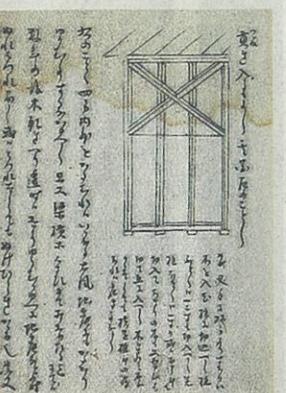
てる今。どの今もかけがえの

ない私の命の歩みであることに気

づけば、この今をどう生きるべき

かの答えはおのずから出よう。

(愛知専門尼僧堂長)



有りなりに任せる

伝統疑わぬ風潮 批判

日本は素晴らしい自然風土に恵まれているものの、風水害と地震という自然灾害が多い。また木造住宅が中心で、火災にも悩まされてきた。これは岩瀬文庫所蔵『蟻息』という写本で、江戸期に書かれた防災論書として珍しい。

まず、話に聞くオランダの住宅のように、家の内外をしつらいで塗り固めて、類焼しないようとする。次に梁や柱には、図のように筋交いの木を入れる。また、屋根も、当時一般的だった板葺きは、火災で火の粉が飛散すると危ないので、瓦葺きにし、瓦は一枚一枚、針金で留める。家の土台は、通常のように土台石の上に直接柱を置かず、別に「こま石」という約三十九方の切り石を据え、その上に横木を渡し、その上に柱を立てる。

そのほか、天井裏や床下に

し、国は経済にとつてもためになるといつた。たしかに、住宅は環境に対する負荷も大きく、頻繁に建て替えることは望ましくない。ところが、人は衣食住については保守的になりがちで、現に今でも日本は、常に政事に心力を尽くし、時世の変化を考えるわけではないとかと思つてしまつます。

日本は一九七〇～八〇年代にかけて繁栄しました

が、この二千年間は各国に追いかけられ、経済的リ

し、國は経済にとつてもためになるといつた。たしかに、住

宅は環境に対する負荷も大きく、頻繁に建て替えることは望ましくない。ところが、人は衣食住については保守的になりがちで、現に今でも日本

は、常に政事に心力を尽くし、時世の変化を考えるといつた。たしかに、住宅は環境に対する負荷も大きく、頻繁に建て替えることは望ましくない。ところが、人は衣食住については保守的になりがちで、現に今でも日本

は、常に政事に心力を尽くし、時世の変化を考えるといつた。たしかに、住宅は環境に対する負荷も大きく、頻繁に建て替えることは望ましく